令和３年６月 30 日

令和３年度　　第４号

学　校　だ　よ　り　７・８月号

自分大好き　みんな大好き　ひとみかがやく　西が岡の子

横浜市立西が岡小学校　泉区西が岡 3-12-11　☎814－3603
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka/

お こ だ で ま せ ん よ う に

副校長　大嶋 智子

地域の方とコーディネーターさんが手配してくださった七夕の笹が学校に届きました。今年も子どもたちの心の願いがびっしりと飾られることでしょう。以前、短冊に下げられた子どもの願い事を見てドキリとしたことがありました。「かかにおこられませんように」

七夕の頃になると思い出す絵本を紹介します。子どもの内面を垣間見る、ドキリとした絵本です。『**おこだでませんように**（くすのきしげのり作）』

ぼくはいつも怒られる。家でも学校でも怒られる。

お母ちゃんの帰りが遅いとき、妹と遊んでやっているのに、妹がわがままを言ってぼくが怒ると、妹はすぐに泣く。お母ちゃんが帰ってきたとたん、また泣き出す。「また妹を泣かして。」わけを言ってももっと怒るに決まっている。だからぼくはだまって横を向く。

休み時間、サッカーの仲間に入れてくれへんかった。「おまえはルールを知らへんし、乱暴やから」と言われた。悔しかったので、キックやパンチをした。「またやったの！」先生に怒られた。「仲間に入れてやらへん」と言われ、ぼくの心もパンチをもらったのに。けれど、何か言うと、また怒られる。

お母ちゃんも先生もぼくを見るときはいつも怒った顔。「そんな怒った顔しとったら、しわが増えるで」と言ったらまた怒られた。いつもきれいでいてほしいのに。

休み時間に大きな声で歌ったら、静かにしなさいと怒られた。入学式の時は、「声が大きくて元気がええね。」と言ってくれたのに。

ぼくは、どないしたら怒られへんのやろ。褒めてもらえるのやろ。

七夕様の短冊に心を込めて丁寧に書いた。「**お こ だ で ま せ ん よ う に**」書き終わったら最後だった。また怒られると思ったら、先生はじっと短冊を見て、泣きながら「ごめんね。」と言ってくれた。さっそくお願いが叶った。

夜、先生から電話があった。そしてお母ちゃんは、妹にするように抱っこして「お母ちゃんの宝物やで。」と言ってくれた。ぼくは、ものすごく幸せです。もっともっとええ子になります。七夕様ありがとう。

皆、「ぼく」のように、どうしてそんなに怒られるのかと思った経験があるでしょう。「ぼく」の気持ちが分かるから心に残ります。そして、「ぼく」の気持ちを知ろうとせず、妹を泣かしたことや友だちをパンチした“結果を怒ってしまった大人”の私たち。だからドキリとしたのです。大人の都合に合わないから、怒っていたのかもしれません。お母さんや先生が「ぼく」を理解したとき、「もっともっとええ子になります。」が僕の心の中に強く生まれました。

誰もが褒められたい、誰もが認めてもらいたい、誰もが・・・大切にされたいのです。**「あなたが大切」**大切にされた人には、他をも大切にしようとする心が育ちます。